



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月8日

上場取引所 東 名

上場会社名 東陽倉庫株式会社

コード番号 9306 URL <http://www.toyo-logistics.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 武藤 正春

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 渡邊 誠
管理本部長兼経理部長

TEL 052-581-0251

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	21,433	3.7	1,097	32.7	1,668	24.3	1,165	24.7
2021年3月期第3四半期	20,671	△8.8	827	△18.0	1,342	3.4	934	12.9

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 1,073百万円 (△4.3%) 2021年3月期第3四半期 1,122百万円 (14.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	30.54	—
2021年3月期第3四半期	24.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	43,439	21,877	50.4
2021年3月期	42,892	21,150	49.3

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 21,877百万円 2021年3月期 21,150百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	4.00	—	4.50	8.50
2022年3月期	—	4.50	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	—	—	5.00	9.50

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 有

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,500	3.0	1,300	22.9	2,000	14.3	1,350	13.7	35.35

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P. 5「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	39,324,953株	2021年3月期	39,324,953株
2022年3月期3Q	1,144,759株	2021年3月期	1,170,567株
2022年3月期3Q	38,169,732株	2021年3月期3Q	38,099,734株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	4
第3四半期連結累計期間	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(会計方針の変更)	5
(セグメント情報)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症における「オミクロン株」の感染拡大が懸念される中、世界的なサプライチェーンの停滞に伴う生産活動への影響もあり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような事業環境の中、当社グループは、①運送体制と流通拠点の強化による3PL物流の推進、②海外拠点の拡充を含めたグローバルな業務の強化、③不動産賃貸料等の安定収入の拡大を進めてまいりました。

また、当社グループは、持続的成長と中長期的な企業価値の向上に努め、営業収益の拡大を図るとともに、収益性及び経営効率の観点から、「売上高経常利益率5%」、「自己資本利益率5%」を目標値として設定しております。

当社グループは、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。このため、前年同期比較は基準の異なる算定方法に基づいた数値を用いております。なお、この変更が当第3四半期連結累計期間の経営成績に与える影響は軽微であります。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

事業のセグメント別及び連結の業績は次のとおりであります。

<物流事業>

保管料が減少したものの、荷役料、陸上運送料、海上運送料等が増加したことにより、営業収益は前年同四半期と比べ767百万円増加(3.8%)し、21,007百万円となりました。セグメント利益は経費の削減をより一層推進したこと等により、前年同四半期と比べ372百万円増加(29.5%)し、1,636百万円となりました。

<不動産事業>

賃貸料が増加したものの、請負工事が減少したことにより、営業収益は前年同四半期と比べ5百万円減少(Δ 1.2%)し、428百万円となりました。一方、時間貸駐車場の運営が堅調に推移したこと等により、セグメント利益は前年同四半期と比べ9百万円増加(5.3%)し、195百万円となりました。

<連結>

上記の結果、営業収益は前年同四半期と比べ762百万円増加(3.7%)し、21,433百万円となりました。営業利益は前年同四半期と比べ270百万円増加(32.7%)し、1,097百万円となりました。経常利益は前年同四半期と比べ325百万円増加(24.3%)し、1,668百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期と比べ231百万円増加(24.7%)し、1,165百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、受取手形、営業未収入金及び契約資産(前連結会計年度末における受取手形及び営業未収入金との比較)が183百万円、有形固定資産が381百万円、投資有価証券が109百万円それぞれ減少したものの、現金及び預金が1,330百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ547百万円増加(1.3%)し、43,439百万円となりました。

負債につきましては、長期借入金が1,082百万円増加したものの、短期借入金が912百万円、流動負債に係る引当金が226百万円、未払法人税等が151百万円それぞれ減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ178百万円減少(Δ 0.8%)し、21,562百万円となりました。

純資産につきましては、その他有価証券評価差額金が118百万円減少したものの、利益剰余金が810百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ726百万円増加(3.4%)し、21,877百万円となりました。

当社グループは、持続的成長へ向け、積極的な設備投資を実施する方針であります。同時に、有利子負債残高、金利水準等に留意しながら安定的な財政状態を維持するよう努めてまいります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として不透明な状態が続いているものの、物流事業における貨物運送の取扱の増加及び費用の削減等により、前回発表の予想値を上回る見通しとなったため、通期の連結業績予想を修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,436,572	7,767,054
受取手形及び営業未収入金	5,771,470	—
受取手形、営業未収入金及び契約資産	—	5,587,739
リース債権及びリース投資資産	97,498	99,045
原材料及び貯蔵品	52,323	51,805
その他	549,428	673,184
貸倒引当金	△854	△767
流動資産合計	12,906,438	14,178,062
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,017,282	9,592,073
土地	9,285,328	9,285,328
その他(純額)	1,248,433	1,292,516
有形固定資産合計	20,551,044	20,169,919
無形固定資産		
投資その他の資産	264,400	227,967
投資有価証券	6,554,463	6,445,297
リース債権及びリース投資資産	969,600	900,985
その他	1,648,636	1,520,139
貸倒引当金	△2,432	△2,461
投資その他の資産合計	9,170,268	8,863,960
固定資産合計	29,985,713	29,261,847
資産合計	42,892,152	43,439,910
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,907,495	1,918,050
短期借入金	4,253,053	3,340,350
未払法人税等	281,160	129,556
引当金	300,618	73,721
その他	1,136,405	1,314,850
流動負債合計	7,878,732	6,776,528
固定負債		
長期借入金	9,700,600	10,782,700
引当金	30,160	28,500
退職給付に係る負債	1,980,955	1,914,767
資産除去債務	119,249	120,832
その他	2,031,660	1,939,093
固定負債合計	13,862,625	14,785,893
負債合計	21,741,358	21,562,421
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,412,524	3,412,524
資本剰余金	2,201,935	2,204,371
利益剰余金	14,898,579	15,708,682
自己株式	△289,462	△283,433
株主資本合計	20,223,577	21,042,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,006,001	887,106
退職給付に係る調整累計額	△78,783	△51,763
その他の包括利益累計額合計	927,217	835,342
純資産合計	21,150,794	21,877,488
負債純資産合計	42,892,152	43,439,910

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業収益	20,671,143	21,433,721
営業原価	19,219,821	19,706,329
営業総利益	1,451,322	1,727,391
販売費及び一般管理費	624,300	629,553
営業利益	827,022	1,097,838
営業外収益		
受取利息	238	159
受取配当金	128,856	103,479
持分法による投資利益	67,527	154,679
助成金収入	318,537	321,564
その他	32,961	19,646
営業外収益合計	548,121	599,529
営業外費用		
支払利息	25,896	24,774
その他	6,617	4,018
営業外費用合計	32,513	28,792
経常利益	1,342,629	1,668,575
特別利益		
固定資産売却益	16,031	8,711
投資有価証券売却益	19,570	—
特別利益合計	35,602	8,711
特別損失		
投資有価証券評価損	—	5,554
固定資産除売却損	20,657	3,960
投資有価証券売却損	—	664
訴訟関連損失	10,000	—
特別損失合計	30,657	10,179
税金等調整前四半期純利益	1,347,574	1,667,107
法人税、住民税及び事業税	356,999	429,255
法人税等調整額	56,084	72,098
法人税等合計	413,083	501,353
四半期純利益	934,490	1,165,753
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	934,490	1,165,753
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152,095	△118,895
退職給付に係る調整額	35,689	27,020
その他の包括利益合計	187,785	△91,874
四半期包括利益	1,122,276	1,073,879
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,122,276	1,073,879

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、当社グループでは、従来、主に顧客との契約に基づく役務の提供が完了した時点で収益を認識していた取引について、「契約に基づく履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識」する方法へ変更しております。また、「顧客との契約がサービスを他の当事者によって提供されるように手配する履行義務」であると判断される取引について、顧客から得られる対価の総額を収益として認識する方法から代理人として手配することの対価である手数料等を収益として認識する方法へ変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の損益及び期首利益剰余金に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び営業未収入金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、営業未収入金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。この変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	物流事業	不動産事業	合計
営業収益			
外部顧客への営業収益	20,239,666	431,477	20,671,143
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	1,743	1,743
計	20,239,666	433,220	20,672,886
セグメント利益	1,264,159	185,966	1,450,125

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,450,125
全社費用及び全社営業外損益(注)	△107,495
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	1,342,629

(注) 全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	物流事業	不動産事業	合計
営業収益			
外部顧客への営業収益	21,007,246	426,474	21,433,721
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	1,548	1,548
計	21,007,246	428,022	21,435,269
セグメント利益	1,636,764	195,911	1,832,676

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,832,676
全社費用及び全社営業外損益(注)	△164,100
四半期連結損益及び包括利益計算書の経常利益	1,668,575

(注) 全社費用及び全社営業外損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び管理部門の営業外損益であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

なお、この変更が当第3四半期連結累計期間の営業収益及びセグメント利益に与える影響は軽微であります。